

双日と株主の皆さまとの
双方向コミュニケーション誌

2013 夏号

双

特集

国際会計基準

「IFRS」導入



New way, New value

双日株式会社
証券コード：2768

当期の業績と今後の見通しについてお話しします。

株主の皆さまにおかれましては、日頃よりご支援とご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

ますます多様化していく事業環境のもと、強固な収益基盤の構築、企業価値の向上のため、「成長軌道に向けた改革の推進」に取り組んでまいります。

代表取締役社長

佐藤 洋二

Q 2013年3月期の実績についてお聞かせください。

A 「中期経営計画2014～Change for Challenge～」の初年度である2012年度の世界の経済情勢は、日本、米国で景気回復の兆しが出てきたものの、欧州の債務問題、中国の経済成長率の低下など、全般的に世界経済の低成長の影響を受けました。

このような環境下、当社の2013年3月期の実績は、当社取扱商品の需要減少、資源価格の下落、さらに、

前年度に主要な海外子会社の決算日統一にともなう15カ月決算を実施したことなどにより、経常利益は345億円と前期比277億円の減益となりました。

当期純利益については、前年度の税制改正にともなう繰延税金資産取り崩しの反動により、前期比179億円増益の143億円となりました。

経常利益、当期純利益ともに中間

決算で修正した見通しである経常利益320億円、および当期純利益100億円を上回ったものの、まだまだ十分な利益水準ではないと考えております。

しかしながら「中期経営計画2014～Change for Challenge～」でテーマとして掲げております成長軌道に向けた改革を着実に推進してまいりました。

Q 「中期経営計画2014～Change for Challenge～」の進捗についてお聞かせください。

A 当社は、「成長軌道に向けた改革の推進」の施策のひとつとして、資産の質の改善を標榜しております。計画初年度の2012年度は、将来の成長のため、440億円の投融資を実行いたしました。その一方で、個別事業・資産を見直し、810億円の資産圧縮を行い470億円の資金を回収するなど、資産の入れ替えを推進いたしました。2013年度に入っても、200億円

規模の不動産案件を売却するなど、資産の入れ替えを着実に進めております。

また、環境の変化に迅速に対応できる組織・体制の構築として、エネルギー・金属部門にコントローラー室を新設し、リスクマネージ力の強化を進めてまいりました。

2013年4月より、生活産業部門にもコントローラー室を新設し、より

一層のリスクマネージ力強化に努めてまいります。

さらに、過去に実施した投融資案件は順調に進捗し、2013年度より収益貢献を始めるものもございます。

「中期経営計画2014」の施策を着実に実行し、収益の積み上げを加速させていきたいと考えております。

Q 2014年3月期の見通しおよび配当についてお聞かせ下さい。

A 当社は、2013年3月期の有価証券報告書より国際会計基準（IFRS）を適用しており、2014年3月期見通しは、IFRSに基づく業績見通しとなります。

（詳細は、裏面の特集ページ「IFRS導入」をご覧ください）

2014年3月期の見通しは、金属資源の価格下落の影響はあるものの、海外自動車事業の回復や石油・ガスの持分生産量の回復などを見込み、当期純利益（当社株主帰属）を250億円と予想しております。

ご参考までに、日本基準による通期見通しは、経常利益では前期比33%増益の460億円、当期純利益は46%増益の210億円となり、当社の収益は着実に回復に向かっております。

配当に関しましては、今年度業績予想、および安定的かつ継続的な配当の実施、連結配当性向20%程度と

いう当社の基本方針に基づきまして、2014年3月期の年間配当を1株当たり4円と予定させていただいております。

「中期経営計画2014～Change for Challenge～」の諸施策を着実に実行し、収益力を強化してまいります。

株主の皆さまのご期待にお応えしていききたいと考えております。

引き続き、当社グループへのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



双日グループ 企業理念

双日グループは、誠実な心で世界の経済や文化、人々の心をつなぎ、新たな豊かさを築きつづけます。

双日グループ スローガン

New way, New value

双日は、2003年の設立以来、新しいビジネスと価値を創出する総合会社として、国内外約470社の関係会社とともに世界各国の拠点を通じ、機械、エネルギー・金属、化学、生活産業の4分野にて事業を展開しております。



営業部門別経常利益構成比

(2013年3月期)



機械部門	エネルギー・金属部門	化学部門	生活産業部門
<ul style="list-style-type: none"> 自動車本部 インフラプロジェクト・産機本部 船舶・宇宙航空本部 <p>オマーンのIPP事業「バルカ3」</p>	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー本部 石炭・原子力本部 鉄鋼・金属資源本部 <p>LNG事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 化学品本部 環境資材本部 <p>ブラジルの石油化学プラント</p>	<ul style="list-style-type: none"> 食料本部 農林資源本部 コンシューマーサービス・開発建設本部 <p>南アフリカチップ原料となる植林木供給地</p>

2012年 10月～12月

- アフリカ・ガーナ共和国でサブサハラ地域初の海水淡水化事業に参入 50万人分の安全な飲み水の安定供給に貢献
- 双日プラネット、欧樹脂メーカーと耐熱性バイオ樹脂分野で提携 ① グリーンケミカル戦略を加速化
- 養殖本まぐろの解体ショー出張サービスを開始 ② 本まぐろを安心・安全・美味しく・楽しくご提供
- ロシア・バシコルトスタン共和国向け アクリル酸プラント建設プロジェクトを受注
- ベトナムにてプロイラー事業進出への検討を開始
- カナダのジブラルタル銅鉱山事業、拡張工事完了 ③ 銅精鉱の生産能力を年産約5万トンから約8万トンへ設備増
- ミャンマー・ネピドー出張所の開設 ミャンマーでの機動性を強化し、ビジネスの機会を発掘



① 植物由来の耐熱性バイオ樹脂製品



② 養殖本まぐろの解体ショー



③ カナダのジブラルタル銅鉱山



④ 豪州のミネルバ炭鉱



⑤ 日商エレクトロニクス
の光多重伝送装置「インフィネラDTN-X」

2013年 1月～3月

- 双日グループ会社の第一紡績、国内で初めて繊維製品の製造会社としてフェアトレード認証(登録)・ライセンスを取得
- 豪州のミネルバ炭鉱にて12カ月間の無事故操業を達成 ④ 当社がオペレーターを務める炭鉱で業界屈指の安全操業を展開
- 双日が出資するレアアース会社・豪州ライナス社がレアアースの製造を開始 レアアースの長期的安定供給に貢献
- 双日グループ会社の日商エレクトロニクス、光多重伝送装置「インフィネラDTN-X」がKDDIの海底電線に採用 ⑤
- トラックなどの車体向け素材(ポリDCPD)のアジアでの販売を開始
- 敷島製パン・双日が出資するインドネシア製パン大手ニッポン・インドサリ・コルピンドが3工場を新設 食生活の西洋化を背景に拡大するパン需要を取り込む
- 双日復興支援教育基金の第3期奨学生の募集を開始

ビジネスニュース

双日グループの2012年度下期の事業活動の一部をご紹介します。

連結損益計算書及び連結包括利益計算書(要旨)

(億円)

	2013年3月期	2012年3月期	増減額
売上高	39,559	44,942	△5,383
売上総利益	1,921	2,316	△395
販売費及び一般管理費	△1,588	△1,671	83
営業利益	333	645	△312
経常利益	345	622	△277
当期純利益	143	△36	179
包括利益	569	△176	745

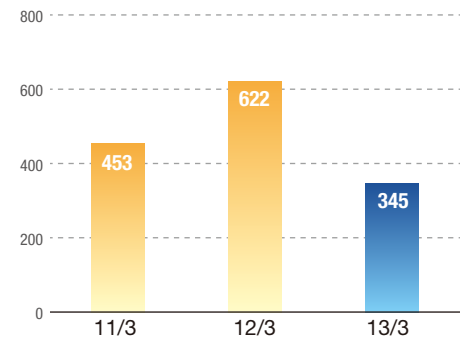
連結貸借対照表(要旨)

(億円)

	2013年3月末	2012年3月末	増減額
流動資産	12,643	12,981	△338
固定資産	8,219	8,222	△3
繰延資産	2	3	△1
総資産	20,864	21,206	△342
流動負債	8,590	9,474	△884
固定負債	8,449	8,427	22
純資産	3,825	3,305	520
負債及び純資産	20,864	21,206	△342

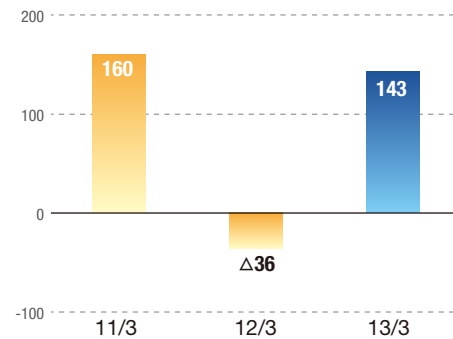
経常利益

(億円)



当期純利益

(億円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(億円)

	2013年3月期	2012年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	515	916
投資活動によるキャッシュ・フロー	△136	△423
財務活動によるキャッシュ・フロー	△527	△364
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,244	4,273

主要経営指標

	2013年3月末	2012年3月末
ネット有利子負債	6,162億円	6,478億円
ネットDER(負債倍率)*	1.7倍*	2.1倍*
自己資本比率*	16.9%*	14.4%*

*少数株主持分を除いて計算しています。

基礎知識「主要経営指標」の意味は?

主要経営指標は、財務の健全性を示す指標です。当社では財務健全性の維持向上も、株主価値向上に向けた必要不可欠な施策のひとつと考えています。

- **ネット有利子負債** 有利子負債総額から現金及び預金を差し引いたものです。
- **ネットDER(負債倍率)** ネット有利子負債が自己資本の何倍に相当するかを示します。この指標は負債への依存度の高低を見るもので、低いほうが負債への依存度が低く、財務安定性が高いということになります。
- **自己資本比率** 総資産に占める自己資本の割合を示します。一般的にこの比率が高いほど、資本構成は安定しており、経営の安全性が高いことを示します。

財務レポート

Q 決算のポイントは?

A 当社の取扱い商品について需要の減少や価格の下落に加え、前期に主要な海外子会社が決算日統一にともなう15カ月決算を実施したことにより、売上高、売上総利益、経常利益ともに前期比で減収・減益となりました。当期純利益については、前期の税制改正にともなう繰延税金資産の取り崩しの反動により、増益となりました。

Q 資産・負債の状況は?

A 資産については、投資有価証券やたな卸資産の増加がありました。石油製品等の販売会社売却および化学品関連取引の減少による受取手形及び売掛金の減少、社債の償還や借入金の返済などによる現金及び預金の減少などにより、減少しました。負債については、石油製品等の販売会社売却による支払手形及び買掛金の減少、社債の償還や借入金の返済などによる有利子負債の減少により、減少しました。純資産については、利益剰余金、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定の増加などにより、増加しました。

Q 2014年3月期の配当はいくらになりますか?

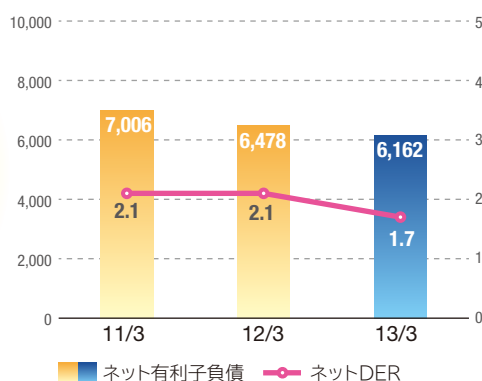
A 2014年3月期の配当につきましては、年間4円(中間2円、期末2円)を予定しております。

当社は、株主の皆さまに対して安定的かつ継続的な配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを経営の最重要課題のひとつと位置づけ、連結配当性向を20%程度とすることを「中期経営計画2014」における基本方針としております。

ネット有利子負債およびネットDER

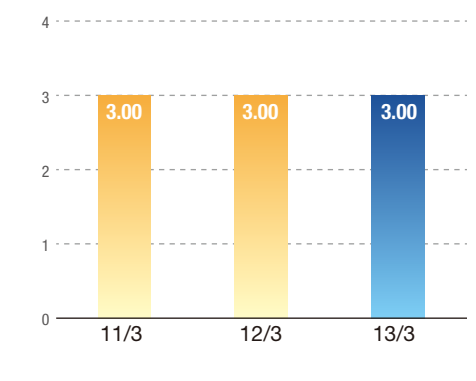
(億円)

(倍)



配当金

(円)



中期経営計画2014

～ Change for Challenge ～

さらなる飛躍に向けた新たな挑戦を果たすため、自らを変革し続けていく
この強い信念をもって、企業価値の向上を目指す

初年度総括

成長軌道に向けた改革を着実に推進

2013年3月期

2014年3月期～2015年3月期

資産の質の改善

- 投融資計画実績 440億円
- 資産圧縮実績 810億円
(資金回収 470億円)

集中事業領域を中心に
投融資を加速させていく一方で
資産入替を着実に実行

組織・体制

- エネルギー・金属部門に
コントローラー室を設置

- 2014年3月期、生活産業部門に
コントローラー室を設置
- 今後、機械部門、化学部門にも
コントローラー室を順次設置予定

今後の投融資計画

投融資を加速させていく一方で、資産の入れ替えを継続し資産の質を改善

- 集中事業領域を中心にアジア、アフリカ、南米等の新興国の優良案件へ投融資を実行
- 環境変化にスピーディーに対応する体制で、柔軟に投融資を推進
- 中期経営計画期間中での収益積み上げを加速

集中事業領域

安定的収益の拡大を図る事業領域

事業例 海外IPP事業、石炭権益・周辺事業、
メタノール事業

収益の拡充と構造転換を図る事業領域

事業例 リチウム事業、汎用石油化学品事業、
肥料事業、穀物トレード事業

将来の成長に備える事業領域

事業例 再生可能エネルギー発電事業、
インフラ整備事業、鉄鉱石鉱山開発

現行中計期間中の
投融資イメージ

- 太陽光事業
- IPP事業
- 新興国消費財
関連事業
- 穀物集荷・
ターミナル事業
- 石油・石炭既存
権益拡張

投資決定
440億円

13 / 3期

14 / 3期

15 / 3期

投融資計画
1,800億円

安定的に収益貢献する事業および新規案件

既存の収益基盤に加え、投融資案件で収益積み上げを加速

機械部門



エネルギー・金属部門



化学部門



生活産業部門



現行中期経営計画以降で収益貢献がスタートする案件への投融資に加えて、
来期から収益貢献に寄与する案件への投融資を拡大

現行中期経営計画における投融資案件

新規案件

■ IPP

(サウジアラビア)
2013年3月商業運転
開始
(オマーン) 2件
2013年4月商業運転
開始

■ 石炭

権益拡張で生産量UP
■ 銅
2015年3月期に持分
生産量8,000トンへ

■ インド工業塩

2014年3月期より
商業生産開始
■ 豪州レアアース
2015年3月期より
取扱数量増加予定

■ 食料資源

将来の内需拡大を視野
に、ベトナムやインド
ネシア等を中心に食料・
消費材関連事業へ投資

収益基盤

■ 自動車

ASEAN、ロシアNIS、
中南米などの新興国で
の自動車販売

■ 石油・ガス・LNG

優等大規模LNG事業に
参画
■ 鉄鋼製品
日本最大の鉄鋼総合商社
を通じて国内外へ販売

■ メタノール

年間取扱数量100万
トン
■ 1,400を超える
取扱品目

■ 高度化成肥料

タイ、フィリピン、ベト
ナムでシェアトップクラス

■ 海外工業団地

ベトナム、インドネシア、
インドにおいて事業展開

前中期経営計画における投融資案件

「IFRS」導入

グローバルカンパニーとしての責務を果たす

双日グループは、2013年3月期有価証券報告書よりIFRS（国際会計基準）を導入しました。本特集では、IFRSの特徴と日本基準との違いについてご紹介いたします。

IFRSとは？

IFRS = 国際会計基準

International Financial Reporting Standards

双日グループは総合商社として、世界中でさまざまな事業を行っており、取引先、株主（投資家）などのステークホルダーが世界中に広がっている、グローバル企業です。当社はグローバル企業としての責務を果たすために、世界共通の会計基準であるIFRSを導入しました。

IFRSの特徴は？

- 原則主義**
大きな原則を示し、企業はこれに基づいた運用と説明を求められる
- 資産負債アプローチ**
収益を生み出した資産・負債の変化を報告
- 公正価値**
資産・負債に公正価値（時価）を使用
- 投資家重視**
投資家に対する、より有益な情報提供を重視

透明性の向上

株主・投資家からの信頼性向上

比較可能性の向上

財務諸表の作成者としては少し苦勞が増えますが、その分、ステークホルダーの方々に、より有益な情報を知っていただき、また会社としてもIFRSの特徴を生かして適切な資産管理や収益構造の強化に繋げていければと思います。

日本ではまだ適用会社が少ないIFRSですが、総合商社業界は全体としてIFRS導入に向かっています。当社ではプロジェクトを起ち上げてから3年間、山積みの課題、一つひとつに議論や検討を重ね、国内外の関係会社を含めグループ全体で導入準備を進めてきました。今後はIFRSに基づき、公正価値を重視した会計処理や、資産内容を中心とした多岐詳細な情報開示を行っていくこととなります。

VOICE

主計部IFRS課
課長
中澤 瑞枝



IFRSで何が変わる？

1 連結財務諸表が変わります

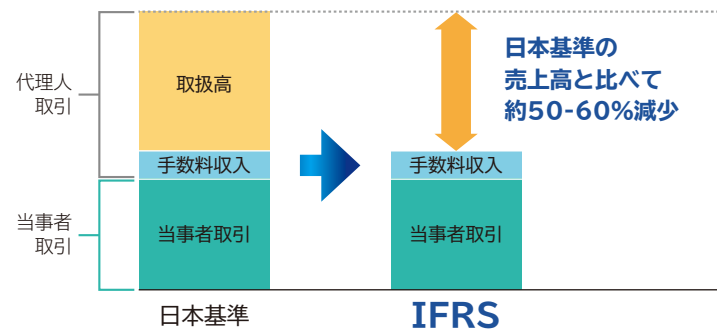
* 双日（株）単体の財務諸表は今後も従来どおり日本基準で作成します。

日本基準	国際会計基準
連結貸借対照表	連結財政状態計算書
連結損益及び包括利益計算書	連結純損益及びその他の包括利益計算書
連結株主資本等変動計算書	連結持分変動計算書
連結キャッシュフロー計算書	連結キャッシュフロー計算書
注記	注記

2 損益計算書（純損益計算書）が変わります

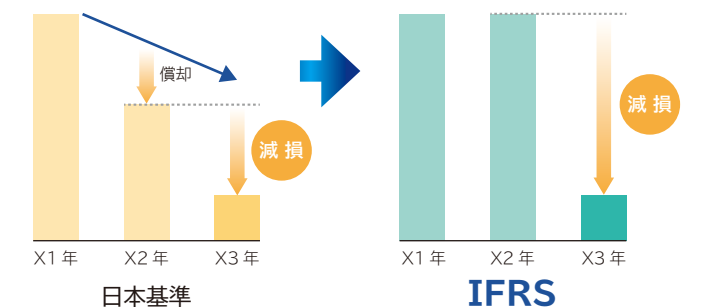
- 売上高がなくなり、収益として表示されます。当社が価格変動リスク、在庫リスクを負わないような、代理人取引において、口銭（手数料）のみを収益とします（純額方式）。但し、従来との比較のため、日本基準による売上高も参考情報として開示いたします。
- 営業活動に係る利益を表示しますが、日本基準の営業利益とは構成内容が変わります。
- 経常利益の概念がなくなり、特別損益の項目もなくなります。
- IFRSでの当期純利益は日本基準の少数株主損益調整前当期純利益に相当し、その内訳として開示する「親会社の所有者」に帰属する金額が、日本基準の当期純利益に相当します。

損益計算書（日本基準）	純損益計算書（IFRS）
売上高	収益
売上総利益	売上総利益
営業利益	営業活動に係る利益
経常利益	税引前利益
特別損益	当期純利益
税金等調整前当期純利益	(当期純利益の帰属)
少数株主損益調整前当期純利益	親会社の所有者
当期純利益	非支配持分



3 当期純利益に影響を与える主な変更点

- のれんの定期的な償却がなくなり、利益の押し上げ効果があります。一方、資産の減損判定が厳しくなり、価値が低下すると直ちに減損損失を計上するため、より適時に資産の価値を財務諸表に反映することになります。
- 有価証券に関する売却損益・評価損が純損益計算書で計上されなくなり、その他の包括利益計算書に計上されます。



詳しくは、双日ホームページをご覧ください。 <http://www.sojitz.com/jp/ir/individual/ifrs/index.html>

第3回

“こちいい”をかたちにする 第一紡績の綿製品

こんな
ところに
双日!



セネガル共和国の綿花を使用した
フェアトレード認証製品



セネガル共和国



人口：1,300万人
公用語：フランス語
首都：ダカール

フェアトレードとは？

開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することで、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組みです。日本国内では、コーヒー飲料やチョコレート菓子などでの導入が進んでいます。

私たちの生活に欠かせない綿製品。こんなところにも双日グループが力を発揮しています。

双日グループの第一紡績(株)では、本当に良いものを永くご愛用いただきたいとの思いから、“こちいい”をかたちにした自社ブランド「シンプルマインド®(simple mind®)」シリーズを開発いたしました。

「シンプルマインド®(simple mind®)」は、綿製のインナーです。これからの季節には、消臭・接触冷感素材を使用したひんやりさわやかインナーを。寒い季節には、天然系発熱素材を使用したふんわりあったか天然系インナーをご用意しております。また、第一紡績(株)は、紡績から縫製までを一貫生産する企業として、国内で初めてフェアトレード認証製品の製造に着手しました。

これからも第一紡績(株)は、より快適で安心な、そしてご満足いただける製品を提供してまいります。

ショップWEBサイト「シンプルマインド®ショップ」

シンプルマインドショップ

検索

<http://www.simplemind.jp>



双日の事業で学ぶ — 理科・社会

総合商社である双日が取り組むさまざまな事業を通じて、理科と社会の豆知識をご紹介します。

最新テーマ

⑱ ミネラルサンド

化粧品から航空機まで

—ミネラルサンドが支える私たちの暮らし

理科の時間

「酸化・還元とは？」※一部抜粋

ミネラルサンドの一部である、チタンやジルコニウムなどの金属元素の多くは酸素と結びつくことで物質として安定しています。



社会の時間

「ミネラルサンドはどこで採れるの？」※一部抜粋

ミネラルサンドはオーストラリア、南アフリカを中心としたアフリカ東海岸諸国、およびインド、ベトナムなど海岸線に沿って砂状に堆積しています。

3分双日 3分でわかる双日の最新情報

もっと双日をご理解いただくために、株式関連情報をはじめ、双日グループの商品情報など3分でわかる双日の最新情報をいち早くアップデートしています。



- ▶ 双日株価情報
- ▶ 双日ホットトピックス
今、最も熱い話題をご紹介します
- ▶ 双日グループWebから
- ▶ 双日グループ最新の商品情報
- ▶ 最近のお問い合わせ
- ▶ 社長の肉声



社長の部屋

佐藤 洋二の「私が歩んだ60年」



当社の代表取締役社長 佐藤洋二が、60余年のこれまでの歩みと、その先に想い描く双日の未来について、6話の連載でじっくり語ります。



e-book版でも公開中!

現在、ホームページにて19テーマが掲載中です。ここでは、その一部をご紹介します。ぜひご覧ください。

⑱ 耐火物

製鉄産業を支える影の主角

理科 「耐火物」って、なに？

社会 原料確保は大丈夫？

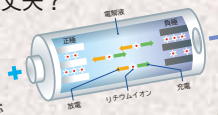


⑳ 2次電池

環境・エネルギー分野の牽引役「2次電池(充電式電池)」

理科 リチウムイオン電池とは？

社会 リチウム資源の確保は大丈夫？



㉑ 石灰

良質な石灰石資源を確保し、需要が急拡大するアジア市場でトップシェアを目指す

理科 石灰って、なに？

社会 石灰が地球を救う？



双日は、株主・個人投資家の皆さまとの
双方向コミュニケーションを
目指しており、
当社ホームページからの
情報開示に力を入れています。
ここでは、ホームページで
公開している情報の一部を
ご紹介します。



詳しくは、

双日 個人投資家

検索

<http://www.sojitz.com/jp/ir/individual/index.html>

ホームページの
ご紹介

株主広場



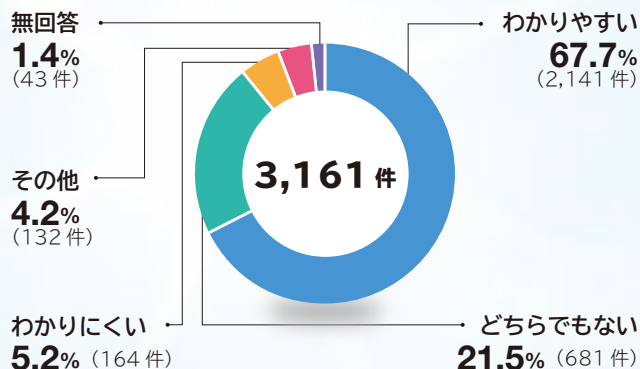
『株主通信 2012冬号』におい

て株主の皆さまにアンケートを実施し、約3200名の方からご回答をいただきました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

一部ではございますが、アンケートの結果をご紹介します。

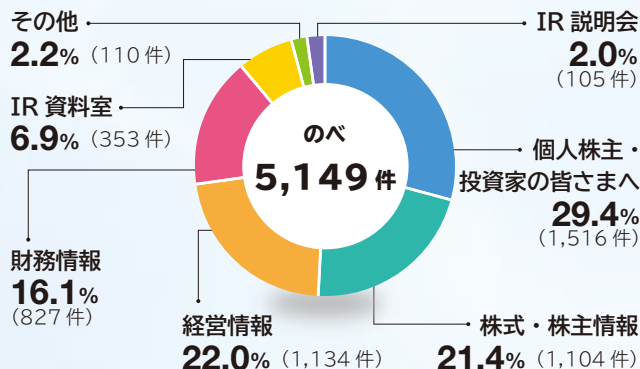
今後も、双日は双方向コミュニケーションを目指したIR活動の充実に取り組んでまいります。

Q 株主通信の冬号の感想はどうか？

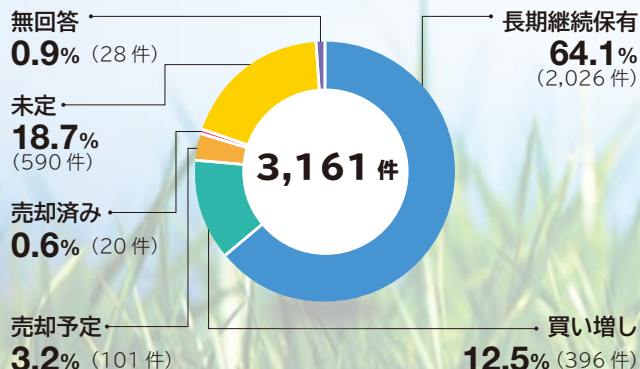


Q 当社ホームページの興味のある項目は何ですか？

(複数選択可)



Q 今後の保有方針は？



株主の皆さまより、日頃お寄せいただいているご意見や質問にお答えいたします。



Q なぜ「双」の仕様は冊子スタイルではないのですか？

A ひとりでも多くの株主の皆さまに目を通していただきたいという想いから、昨年夏号より、一般的な冊子スタイルから、普段の生活の中で馴染みのある新聞や折り込み広告をヒントに1枚ものの仕様に、刷新いたしました。

また、株主さまがお住まいの自治体によっては、ごみの分別の決まりにより、ホチキス一つひとつはずさなければいけない地域もあるとお声をいただいております。今回、この新しい仕様に刷新することで、ホチキス留めの必要のない環境配慮型の株主通信となるよう心がけました。



第10回 定時株主総会のご報告

平成25年6月25日、ANAインターコンチネンタルホテル東京において当社第10回定時株主総会を開催しました。

決議通知

第10回定時株主総会決議ご通知

平成25年6月25日

平成25年6月25日開催の当社第10回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されましたので、ご通知申し上げます。

記

■ 報告事項

- (1) 第10期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)事業報告、
連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
(2) 第10期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記内容を報告いたしました。

■ 決議事項

第1号議案

剰余金の配当(第10期 期末配当)の件

本件は原案どおり承認可決されました。概要は、以下のとおりとなります。

期末配当に関する事項

(1) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額

当社普通株式1株につき

金1円50銭

(年間配当金 金3円00銭)

総額1,876,622,774円

(年間配当総額3,753,250,313円)

(2) 剰余金の配当が効力を生じる日

平成25年6月26日

第2号議案

取締役7名選任の件

本件は原案どおり承認可決されました。

加瀬豊、原大、佐藤洋二、段谷繁樹、茂木良夫、指田禎一、長島徹の7名が選任され、

本日それぞれ就任いたしました。

第3号議案

監査役3名選任の件

本件は原案どおり承認可決されました。尾島洋一、瀬古美喜、津谷忠男の3名が選任され、

本日それぞれ就任いたしました。

以上

福岡 株主説明会 開催のご案内



2013年9月に福岡におきまして、株主説明会を開催いたします。

昨年4月にスタートした「中期経営計画2014～Change for Challenge～」を中心に、今後の事業展開など、株主価値向上に向けた取り組みについてご説明させていただきたいと存じます。

当社をより深くご理解いただける機会になれば幸いです。

皆さまのご参加をお待ちしております。

- 会場収容人数の都合上、抽選とさせていただきます。
- 抽選の結果は、入場票の発送をもってご当選者の発表に代えさせていただきます(入場票は2013年8月上旬発送予定です)。
- ご入場は、当社から発送した入場票をお持ちの株主さまご本人限りとさせていただきます。

開催日 2013年9月2日(月曜日)

時間 午後2時～午後4時

場所 福岡市内のホテル

当社出席者 取締役ほか

お申込み方法 同封の返信用はがきに必要な事項をご記入の上、ご投函ください。

お申込み締め切り 2013年7月12日(金曜日)必着

！ ご注意

※ 個人情報保護のため、同封の保護シールのはく離紙をはがし、返信用はがきの個人情報記載欄の上にシールを貼りつけてから、ご投函ください(切手は不要です)。

※ 会場までの交通費は株主さまご本人のご負担となります。

※ 参加申込用はがきにご記入いただいた個人情報は、議決権行使に関するご案内や株主さま向けの活動充実のために使用させていただく場合がございます。予めご了承の上、お申込みください。

前回の2013年3月4日に開催しました名古屋株主説明会の映像は、下記よりご覧いただけます。

双日 名古屋株主説明会

検索

<http://www.sojitz.com/jp/ir/meetings/share/index.html>

本件に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
会社説明会専用窓口 株主さまサポートセンター

TEL: 0120-313-282(通話料無料) 土日、祝祭日を除く平日 9:00～17:00

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎事業年度終了後3カ月以内
株主名簿管理人 特別口座の口座 管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 大阪証券取引所(注) (証券コード：2768) (注) 大阪証券取引所は、2013年7月16日付 をもって東京証券取引所と市場の統合を行 う予定のため、同日以降、当社の上場証券 取引所は東京証券取引所になります。
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.sojitz.com/jp/koukoku/index.html (ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をできない場合は、日本経 済新聞に掲載する方法により公告いたします。)
株式の状況	(2013年6月25日現在)
発行可能株式総数	2,500,000,000株
発行済株式総数	1,251,499,501株
株主数	188,886名

会社情報

会社概要	(2013年6月25日現在)
会社名	双日株式会社
英文名	Sojitz Corporation
設立	2003年4月1日
資本金	160,339百万円
事業目的	総合商社
本社所在地	〒100-8691 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号
TEL	03-6871-5000
FAX	03-6871-2430
URL	http://www.sojitz.com
拠点数	国内 7(支店、国内法人等) 海外 89(現地法人、駐在員事務所等)

役員	(2013年6月25日現在)
代表取締役会長	加瀬 豊 (かせ ゆたか)
代表取締役副会長	原 大 (はら たかし)
代表取締役社長	佐藤 洋二 (さとう ようじ)
代表取締役副社長執行役員	段谷 繁樹 (だんたに しげき)
代表取締役専務執行役員	茂木 良夫 (もぎ よしお)
取締役(非常勤)	指田 禎一 (さしだ よしかず) 長島 徹 (ながしま とおる)
監査役	松本 順 (まつもと じゅん) 尾島 洋一 (おじま よういち)
監査役(非常勤)	町田 幸雄 (まちだ ゆきお) 瀬古 美喜 (せこ みき) 津谷 忠男 (つや ただお)

払渡しの期間終了後のお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部

 0120-232-711 (通話料無料)

土日、祝祭日を除く平日
9:00 ~ 17:00

配当のご案内

当期における期末配当については、期初
の予定どおり、1株当たり1円50銭といた
しました。配当金は、2013年6月26日
以降お受け取りいただけます。

なお、ゆうちょ銀行または郵便局で受領
される場合の払渡しの期間は、2013年
6月26日から2013年7月31日までと
なっております。

編集後記

「中期経営計画2014」の発表後、第3弾と
なる「双」2013夏号をご覧いただきありが
とうございます。

今回の特集では、双日がグローバル企業とし
ての責務を果たすために2013年3月期
有価証券報告書より導入をスタートした
IFRS(国際会計基準)について取り上げま
した。株主の皆さまに、IFRSとはどのよう
なもので、従来と比較して、何が変わるのかを
ご紹介しております。

また、株主広場では、2012冬号に実施し
たアンケートの一部をご報告しております。約
3200名の株主さまにご協力いただき、誠に
ありがとうございました。

今回の「双」2013年冬号は、2013年
12月上旬の発行予定です。
皆さま、どうぞご期待ください。
双日株式会社 IR室

株主カレンダー

2013年	
5月 8日	2013年3月期 決算発表
6月25日	第10回 定時株主総会
8月 6日	2014年3月期 第1四半期決算発表
9月 2日	福岡株主説明会

将来情報に関する注記

本報告書に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策など
に関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。



双日株式会社